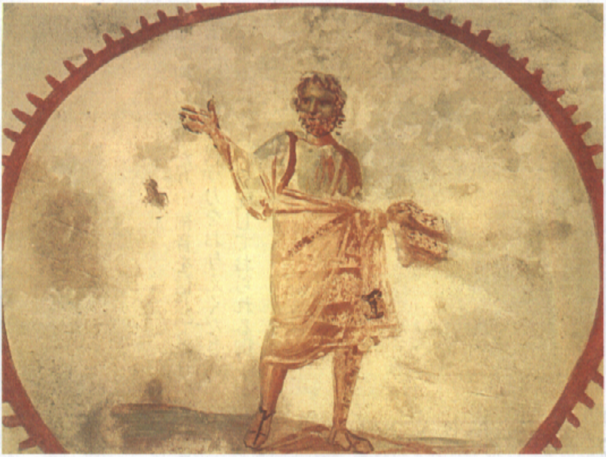
灰の水曜日

隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる

（マタイ６・４より）



キリスト

壁　画　　ローマ　ドミティッラのカタコンベ　３世紀

聖書と典礼 *2014.3.5*

灰の水曜日（紫）

大斎・小斎

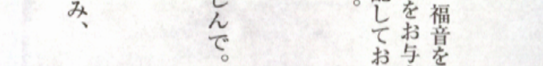
入祭の歌（歌わない場合は下の入祭唱を唱える）

集会祈願

人々の回心をお望みになる神よ、四旬節の初めに当たり、福音を信じてキリストの弟子となったわたしたちに、悪霊に対して戦う力をお与えください。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

ヨエルの預言（ヨエル2・12－18）

12 主は言われる。
「今こそ、心からわたしに立ち帰れ、断食し、泣き悲しんで。
13 衣を裂くのではなく、お前たちの心を引き裂け。」
あなたたちの神、主に立ち帰れ。
主は恵みに満ち、憐れみ深く、忍耐強く、慈しみに富み、
くだした災いを悔いられるからだ。
14 あるいは、主が思い直され、その後に祝福を残し



入祭唱（知恵11・23－24、26参照）

神よ、あなたはすべてのものをあわれみ、お造りになったものを一つも嫌われることはない。あなたは人の罪を見逃し、回心する人をゆるしてくださる。まことにあなたはわたしたちの神。

灰の式があるため、回心の祈りは唱えない。

第一朗読

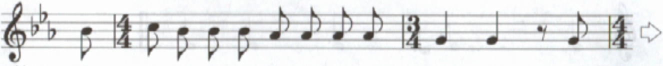
衣を裂くのではなく、お前たちの心を引き裂け

〔ヨエルが預言をした時代はペルシア帝国の支配の末期にあたるといわれる。当時は恐ろしいいなごの襲来があったようで（1・4参照）、ヨエ

あなたたちの神、主にささげる穀物とぶどう酒を
残してくださるかもしれない。
15 シオンで角笛を吹き、断食を布告し、聖会を召集せよ。
16 民を呼び集め、会衆を聖別し、長老を集合させよ。
幼子、乳飲み子を呼び集め
花婿を控えの間から、花嫁を祝いの部屋から呼び出せ。
17 祭司は神殿の入り口と祭壇の間で泣き、主に仕える者は言うがよい。
「主よ、あなたの民を憐れんでください。
あなたの嗣業である民を恥に落とさず
国々の嘲りの種としないでください。
『彼らの神はどこにいるのか』と
なぜ諸国の民に言わせておかれるのですか。」
18 そのとき、主は御自分の国を強く愛し、その民を深く憐れまれた。

答唱詩編（詩編51・3＋4、5＋6cd）典6①②

神よ、いつくしみ深くわたしを顧み、
豊かなあわれみによって　わたしのとがをゆるしてください。
悪に染まったわたしを洗い、罪深いわたしを清めてください。



ルはこれを主の怒りの日の予兆として、民に回心を求めた〕

13衣を裂く　これ自体回心のしるしだが、さらに「心を引き裂け」という表現で、徹底した回心を求めている。

主は恵みに満ち……　出エジプト34・6参照。

くだした災い　いなごの群れのこと。神に捧げる作物も残らないほどの被害がもたらされた。

15聖会　礼拝のために召集された集会のこと。

17嗣業　賜物、所有、相続財産のこと。イスラエルの民は、神がエジプトから導き出し、ご自分のものとされた民であるので、神の嗣業といわれる。

答唱詩編（詩編51）

〔罪を告白し、そこから救われることを神に親しく歌いか

わたしは自分のあやまちを認め、罪はわたしの目の前にある。
あなたがわたしをさばかれるとき、そのさばきはいつも正しい。

使徒パウロのコリントの教会への手紙（二コリント5・20〜6・2）

5・20〔皆さん、〕神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わっておします。神と和解させていただきなさい。21罪と何のかかわりもない神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によ神の義を得ることができたのです。

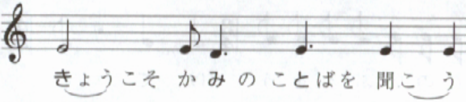
6・1わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。らいただいた恵みを無駄にしてはいけません。2なぜなら、
「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。
救いの日に、わたしはあなたを助けた」
と神は言っておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日

詠唱（詩編95・8ab参照）典261③　（下の楽譜）

マタイによる福音（マタイ6・1〜6、16〜18）

〔そのとき、イエスは弟子たちに言われた。〕1「見てもらおうとし人の前で善行をしないように注意しなさい。さもないと、あなたがたの父のもとで報いをいただけないことになる。

した
願い
方を、
って
神か
。
て、
の天



ける詩編。表題はこの詩をサムエル記下12章のダビデの罪の告白と関連づけている〕

第二朗読

神と和解させていただきなさい。今や恵みの時

〔この手紙の中で、自分の使徒としての任務を明らかにしてきたパウロは、それが「和解のために奉仕する任務」（5・18）であると言う。そして、続くこの箇所で、キリストによる神との和解を受け入れるよう呼びかける〕

6・2「恵みの時に……」

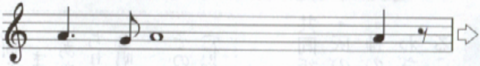
イザヤ49・8からの引用。

福音朗読

隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる

[2]だから、あなたは施しをするときには、偽善者たちが
ようと会堂や街角でするように、自分の前でラッパを吹き
ない。はっきりあなたがたに言っておく。彼らは既に報い
[3]施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせ
[4]あなたの施しを人目につかせないためである。そうすれ
を見ておられる父が、あなたに報いてくださる。
[5]祈るときにも、あなたがたは偽善者のようであっては
者たちは、人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立っ
はっきり言っておく。彼らは既に報いを受けている。[6]だ
祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れ
れるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを
なたの父が報いてくださる。
[16]断食するときには、あなたがたは偽善者のように沈ん
はならない。偽善者は、断食しているのを人に見てもらお
しくする。はっきり言っておく。彼らは既に報いを受けて
は、断食するとき、頭に油をつけ、顔を洗いなさい。[18]そ
断食が人に気づかれず、隠れたところにおられるあなたの
くためである。そうすれば、隠れたことを見ておられるあ
てくださる。」

人からほめられ
鳴らしてはなら
を受けている。
てはならない。
ば、隠れたこと
ならない。偽善
て祈りたがる。
から、あなたが
たところにおら
見ておられるあ
だ顔つきをして
うと、顔を見苦
いる。17あなた
れは、あなたの
父に見ていただ
なたの父が報い



（山上の説教の一節。「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」（5・48）ということばに続く箇所）

2偽善者　マタイでは律法学者やファリサイ派を指す（23・13参照）。原語は「俳優」の意味があり、表の態度と心の中とが違うことを指す意味合いがある（15・7－8、22・18参照）。

（省略された7－15節では、祈りについての教えが続き、「主の祈り」が教えられる。）

灰の祝福

皆さん、回心のしるしとしてわたした
神である父が祝福してくださるよう、

いつくしみ深い神よ、あなたは、へり
れ、ゆるしを与えられます。わたした
るあなたの民に祝福を✝注いでくださ
で復活祭を迎え、御子の過越の神秘を
わたしたちの主イエス・キリストに

（または）

全能の神よ、あなたは、罪びとの死で
ちの祈りをいつくしみ深く聞き入れ、
から出て土に帰って行くわたしたちが
を受けて新しいいのちを得、復活され
すように。
わたしたちの主イエス・キリストに

共同祈願（信者の祈り）――例文――
わたしたちを招いてくださる神に信頼
先唱（下の例文などを参考にして意向を唱

ちが頭に受けるこの灰を、
心から祈りましょう。

くだって罪の償いを行う人を受け入
ちの祈りに耳を傾け、この灰を受け
さい。四旬節の務めに励み、清い心
祝うことができますように。
よって。アーメン。

はなく回心を望まれます。わたした
この灰を祝福十してください。土
、四旬節の務めに励み、罪のゆるし
た御子の姿にあやかることができま
よって。アーメン。

して祈りましょう。
える）

灰の式

説教の後、司祭は上段の祈りによって、灰を祝福する。

続いて、司祭は、一人ひとりの頭か額に、この灰をかける。
そのとき、
「回心して福音を信じなさい」
または
「あなたはちりであり、ちりに帰って行くのです」
と唱える。

その後、共同祈願を行う。
（信仰宣言は唱えない）

共同祈願の意向（例文）

- 灰のしるしを受けたわたしたちが、神のみ前で自分の罪を思い、回心のわざに励み、主に従う心を新たにすることができますように。

一同　き

いつくし
導いてく
を多くの
わたし

奉納祈願
聖なる父
ります。
れて、御
わたし

拝領の歌

拝領祈願
神よ、今
わたした
信仰生活
わたし

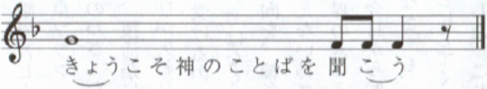
ょうこそ神のことばを聞こう。（下の楽譜）

み深い父よ、四旬節を迎えたわたしたちの回心を力強ください。新たな心でみことばを受けとめ、キリストの愛人と分かち合うことができますように。
たちの主イエス・キリストによって。アーメン。

よ、四旬節の初めに当たり、このいけにえをささげて祈回心と愛のわざに励み、よこしまな欲望と罪から解放さ子の受難をふさわしく記念することができますように。
たちの主イエス・キリストによって。アーメン。

（歌わない場合は下の拝領唱を唱える）

あずかった秘跡によって助けをお与えください。
ちのささげる断食がみ旨にかなうものとなり、
が強められますように。
たちの主イエス・キリストによって。アーメン。



- 神よ、だれもが抱える苦悩や悔いる心を顧（かえり）みてください。あなたのいつくしみに支えられて、互いにもゆるし合えますように。
- 自然や文明がもたらす災いによって困難のもとに置かれている人々を力づけてください。周りの人々もたえず支え続けることができますように。
- （それぞれの共同体のために祈る）

拝領唱（詩編1・2－3）
流れのほとりの木のように、
時が来ればその人の行いも実を結ぶ。

四旬節の卵

四旬節が始まると、小斎と呼ばれる肉食を控える習慣があります。場所によって、また時代によっては卵や乳製品も食べないようです。再宣教が始まった頃の日本でも、今村（福岡県）の潜伏キリシタン発見の出来事では、この習慣が大切なしるしとなったと伝えられています。村人は、旅人が鶏肉も卵も辞退したことで、同じ信仰をもつ者であることを見抜いたのです。

人が食べなくても鶏は卵を毎日産みますから、復活祭には沢山の卵が残っていることになります。復活祭に卵を配るようになった理由は、案外そのあたりにあるのかもしれません。そうだとしたら、大量に買い求めた卵を配るときには気づかない、身に沁みる喜びがあるのだと思います。復活祭の卵が、四旬節の「節制」に努めたしるしにもなるからです。

四旬節に勧められるのは「祈り」「節制」「愛のわざ」です。「節制」によって手元に残る四旬節の卵は、復活祭まで保存しなくても、食べるもののない方にお譲りすることができます。世界に食料は十分にあるのに、沢山の方が飢餓で苦しんでいるのは「真のスキャンダル」であると教皇フランシスコは繰り返しています。足りないのは「愛のわざ」だということでしょう。「愛のわざ」が増えれば、復活祭に配る卵が残っていなくても、わたしたちの喜びが失われることはないのです。

灰を受けるのは回心へのしるしです。回心は単なる「反省」ではなく、いつの間にかズレてしまった自分の歩みの方向を、神さまに向けてぴったり合わせ直すことです。見えない神さまにぴったり狙いを定めるために、自分と世界のきょうだいを結ぶ線を伸ばしていくのです。これが今日から始まる四旬節の歩みです。「愛のわざ」も「愛のなさ」も、きょうだいに向けられたこと、それは「わたしにしてくれたこと」であるとイエスが教えてくださいました。これに気づく心を育（はぐ）むのが「祈り」です。卵より大切なものがあります。

（嘉松（かまつ）宏樹・長崎教区司祭）

聖書本文は㈶日本聖書協会発行『聖書　新共同訳』（一九九九年版）による
典礼文監修カトリック中央協議会
日本音楽著作権協会（出）許諾第1316310-301号「聖書と典礼」
2861号　オリエンス宗教研究所発行

（無断複写を禁ずる）